

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>が続いた」が多い。戦国時代のことと混同しているものと思われる。</p>	<p>る。</p>
<p>3. 神話・伝承の読み取りかた  神話や伝承に見られる事柄に対する判断として、歴史上の出来事と異なること、及び当時の人々がいっていた考えがわかることの二つを選ぶ問題で、正答率はそれぞれ75%、68%である。誤答例としては、神話や伝承に書かれた事柄がすべて歴史上の出来事であると判断したものが目だつ。</p>	<p>。 設問したことは、神話・伝承の学習における二つの留意点である。史実との混同を避けるとともに、神話や伝承が単なる物語でないことに触れ、当時の人々がいっていた国家の成立や国土の統一に関する考え方を示すものであることを指導したい。</p>
<p>4. 古墳や古墳分布についての思考  古墳が天皇やその地方の豪族の墓であるとした正答率は61%であり、誤答例としては、古墳は「天皇や身分の高い貴族の墓」であるとしたものが多い。よく似たもの（地方の豪族と身分の高い貴族）を弁別することができないように思われる。  前方後円墳の分布についての正答率は67%である。古墳の出土品から当時の状況を推察することについての正答率は81%である。</p>	<p>。 類似したものから区別するには、既存の知識を活用しなければならない。この問題はその能力を見るものであり、この能力の習得には指導過程において問題に直面させ思考させる場を設定し、指導することが大切であると考える。</p>
<p>5. 江戸幕府の大名支配の工夫についての思考（歴史地図）  幕府が直接治めた土地とその直接治めた理由「大阪は、経済の中心地だったから」の正答率は、33%である。  大名の配置については、正答率が66%である。</p>	<p>。 歴史地図を見て既存の知識を駆使して答える問題であるが、正答率が低いのは、歴史地図の読み取りに慣れていないためと思われる。  歴史学習にあたっては、年表とともに歴史地図を活用する機会を多くしたい。</p>
<p>6. 国民の権利と義務の区別  権利（信教の自由・参政権）義務（納税</p>	<p>。 児童にとって権利と義務は混同しやすいので、権利と義務について十分に理解させるこ</p>